

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 19 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04864

研究課題名(和文) 教職科目と教科専門科目を横断する学際的な教員養成カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Development of an interdisciplinary teacher training curriculum by cross-curricular cooperation teaching profession subjects and subject specialized subjects

研究代表者

山内 規嗣 (Yamauchi, Noritsugu)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授

研究者番号：20302359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：小学校教員養成の学生の実践的指導力を高めるために、教職科目と教科専門科目を横断する学際的教員養成カリキュラムの開発を試みた。その結果、広島大学教育学部の小学校教員養成カリキュラムにおける多様な科目間の内容面における連携を実践し、学生の内容理解や関心・意欲の向上に効果が見られた。また、この成果に基づいて、授業科目の内容の修正を行い、カリキュラム全体の改善を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在国内で求められている小学校教員課程学生の実践的指導力向上とそのための学際的カリキュラム開発という課題に対して、従来型のコア・カリキュラム的なモデルの成果をふまえて、より柔軟に各授業科目を連携させる横断的カリキュラムを検討し、様々な授業科目間の連携を実践・検証することで、学生の理解と関心・意欲の向上を促進する新たなモデルを提起した。

研究成果の概要(英文)：To enhance the practical leadership of elementary school teacher training students, we attempted to develop an interdisciplinary teacher training curriculum that crosses teaching profession subjects and subject specialized subjects. As a result, it was found that the content cooperation between various subjects in the elementary school teacher training curriculum of the Faculty of Education of Hiroshima University was practiced, and the effect was seen in improving students' understanding of the content and their interest and motivation. In addition, based on this result, the content of the lesson subjects was revised and the entire curriculum was improved.

研究分野：教育学

キーワード：小学校教員養成 カリキュラム開発 横断的カリキュラム 学際的カリキュラム 実践的な指導力の育成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

現代日本の小学校教員養成改革は、国立の教員養成大学・学部の在り方に関する懇談会『今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について 国立の教員養成大学・学部の在り方に関する懇談会報告書』(2001年)において示された「モデル的なカリキュラム開発の必要性」に基づき進められてきている。その主たる課題は、開設科目間での連携性を高めて包括的・体系的な教育を行うことで、学生の実践的指導力を向上させることにある。これについては特定の教科・領域間を横断的に関連づけるコア・カリキュラム的なモデルなどが提示されてきているが、本来この横断的学習とは、今日の学習者主体の学校教育論の源流に位置する大正新教育運動における合科学習が、体育と修身・理科の連携や算数と他の全教科との連携などを勧めているように、より多様で開かれた可能性を有している。そこで、カリキュラムの体系性を確保しつつこの制約を緩和し、横断的学習についての学生の柔軟な理解を学際的な視野から促進したうえでその指導力の育成を目指すことが、今後の発展的課題であると考えられる。

本研究の代表者・分担者は、これまで広島大学教育学部第一類初等教育教員養成コースの担当教員として小学校教員養成カリキュラム改革を共同研究してきており、2013年の学内共同研究プロジェクト『初等教育教員養成モデル・コア・カリキュラムの開発 教科指導を中心に』(研究代表者・朝倉淳)では、教科科目間の共通内容を取り入れた横断的な授業実践の試みについて検討し、その研究成果としてプログラムの全科目を対等に位置づけて内容を相互に蜘蛛の巣状に関連づける「ウェブ型カリキュラム」モデルについて検討している。ただし、このモデルの定期にとどまり、この横断的カリキュラムの具体的改善やその検証が課題として残されていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上の背景をふまえ、小学校教員養成と初任者研修の往還的な連携のもとで、教職科目と教科専門科目を横断する学際的教員養成カリキュラムを開発するとともに、初任者研修との連携を意識し、そのことによって小学校各教科の見方・考え方を統合する学際的な実践的指導力の育成に寄与することである。

そのため本研究では、我が国の教員養成課程改革の主軸となってきたコア・カリキュラム化の努力を発展的に継承するものとして、広島大学教育学部の小学校教員養成カリキュラムにおける多様な科目間の内容面におけるウェブ型連携を行い、学習者におけるその効果を検証し、カリキュラム全体における能力開発の階層性・体系性を再検討した。さらに、教育実習先である附属学校ならびに初任者教員研修と横断的学習指導についての連携を意識し、学部教育と教員研修を貫く学際的で実践的指導力向上プログラムの構築を目指した。

3. 研究の方法

まず、広島大学教育学部における現行の小学校教員養成カリキュラムにおける学生の学習内容の分析を行い、これに基づいて各科目間の連携を試行しその成果と課題点を明らかにした。また、横断的・総合的な指導力向上を目的とする国外の教育実践について研究交流を行った。

続いて、上記の分析によって明らかとなった課題をふまえて小学校教員養成カリキュラムにおける各科目間連携の改善を行うとともに、カリキュラム全体の構造化を行い、成果を検証した。また、学部教育と初任者研修との連携を行い、体系的な実践的指導力向上のプログラム化を行った。

4. 研究成果

(1) 現行の小学校教員養成カリキュラムにおける課題の分析

まず、広島大学教育学部における現行の小学校教員養成カリキュラムの学習効果の調査分析の一環として、必修科目間における内容のつながりに対する学生の意識を調査分析した。その結果、教職科目間についての高い意識と、教育系科目・心理系科目間や教職科目・教科専門科目間についてのやや低い意識がそれぞれ確認され、今後の横断的・総合的なカリキュラム改善のための視点が指摘された。

次に、各科目間連携の試行とその効果の検証として、体験型授業科目である「地域教育実践」(フレンドシップ事業)の事前指導において教職科目・教科専門科目の担当教員複数による講義を導入し、そこで理論と実践の往還的学習を図った。実践的指導力育成を軸とするこの各科目間連携について、学生の学習効果を分析した。その結果、教職・教科専門科目の講義を通じた学習内容を横断的・総合的に捉え直し、教育実践に応用するための認識を、学生が一定程度獲得していることが確認された。あわせて、今後のさらなる改善点が指摘された。

また、国外の教育実践との研究交流として、2017年10月13日(金)にカナダのコンコルディア大学から Anita Sinner 准教授を招聘し、教員養成・国際研究セミナーを開催した。「小学校教員養成の特質」、「地域との連携による教員養成の強化」、「理論と実践の往還を図る教員養成ポートフォリオ」をトピックとして講演いただき、日本とカナダの比較とその背景などについて議

論・交流を行った。その結果、ポートフォリオによる学生の自己認識・目的意識の深化や学習過程の具体化、地域連携による支援の重要性などといった両国の共通点ともに、制度としての教員養成課程や地域文化などにおける相違点も確認された。また、2019年10月7日にイギリス Conductive Music よりエンリコ・ベルテッリ (Enrico Bertelli) 氏 (音楽学者・パーカッション演奏家)・鹿倉由衣氏 (学術博士、CIC Workshop leader、長唄三味線演奏家) を招聘し、レクチャーとワークショップ及びラウンドテーブル「STEAM教育のいまとこれから」を開催し、現代の持続可能な社会実現に向けた STEAM 教育ならびに教員養成の国際的動向とその実践・諸課題について意見交流を行った。

(2) 小学校教員養成カリキュラムにおける各科目間連携の実践改善とその効果の検証

教職科目・教科専門科目の連携の改善策として、まず教職科目同士の連携として、「教育の思想と原理」と「初等カリキュラム開発論」(とくに体育科)との連携による各科目担当教員の相互授業参加を実施した。次に、教職科目と教科専門科目の連携として、「道徳教育指導法」への「初等音楽科学習指導論」担当教員の授業参加を実施した。また、教科専門科目同士の連携として、「社会科教育法」と「図画工作科教育法」との連携を実施した。

これらの連携試行とともに受講学生への意識調査を実施した結果、科目間連携によって、学生の理解・関心の深化や、他の授業科目の内容も横断的に学習しようとする意欲の向上などについて、一定程度の効果があることが確認された。とくに、内容の関連性について学生の意識が低かった教職科目・教科専門科目間の連携によって、教科指導の技術と直接関係のない教職科目の内容が教科指導においても重要性をもつことを学生に気づかせるとともに、同様に直感的に結びつき難い他の授業科目間にも内容上の関連性が存在することを意識して学習する傾向を惹起することができた。

このうち、教職科目同士の連携においては、民主主義的な合意形成の意義と小学校授業における具体的実践を主題として、民主主義社会ならびにこれを支える学校教育の思想・理念としての理解と、その授業実践を通じての体験的学習のあり方について、学生が横断的・討論的に学習することを可能にした。また、教職科目と教科専門科目の連携においては、道徳科と音楽科における美的感性の位置づけについて横断的な授業を実施することを通じて、道徳科の基盤である価値判断を対象とする倫理学と、美的感性・判断を対象とする美学とを学際的・横断的に学習する契機を提供することとなった。その一方、学生が教職科目と内容上の強い関連性をもつと予想する教科専門科目には、依然として国語・生活科など特定教科への偏りが確認された。これは科目間連携で扱った内容の性質に由来するものであるとともに、教科専門科目間の双方向的な連携における今後の重点を示している。

(3) 小学校教員養成カリキュラムの構造的改善の計画立案と実施

学生の意識と各科目間連携の実践改善についての検証をふまえて、連携の効果をより向上させる授業科目の開講期・開講時間の調整、シラバスの修正、授業科目の新設・整理・統合などを検討し、カリキュラムの改善を図った。とくに理論と実践の往還的学習をいっそう促進することで各授業科目間の連携を緊密にするために、体験型授業科目である「地域教育実践」を1年次対象から1~4年次対象へと拡充し、各学年の学習内容を発展的に段階化するとともに、他の授業科目や教育実習との横断的な学習を行うこととした。これらの改善によって、文部科学省が定める教職コア・カリキュラムに対応しつつ、各授業科目間の多様な双方向的連携を可能にするカリキュラムを構築した。

(4) 今後の展望

上記のカリキュラム改善の全体としての成果については、新たなカリキュラムの履修学生が卒業する令和4年度終了時に検証することが可能となるため、その時点での分析を予定している。あわせて、現在学部内で検討中の改組にあたり、この成果に基づいたカリキュラムのさらなる改善を行うこととする。

また、当初研究計画に含めていた附属学校における教育実習との連携及び教員研修との連携とその効果の検証については、新型コロナウイルス対策による制限のために実施することができなかった。今後は、本研究で得られた知見に基づき、今後の教育実習ならびに教員研修との連携を深化させ学生の実践的な指導力をより効果的に育成するための方策について検討していくこととする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 山内規嗣・木原成一郎・寺内大輔	4. 巻 27
2. 論文標題 小学校教員養成コースにおける教職科目感の連携に関する事例研究 体育科・音楽科において教師に求められる道徳的視点に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 101-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺内大輔・山内規嗣	4. 巻 27
2. 論文標題 教員養成課程における教科横断的な授業の可能性 美 の多様性と 善 との関係性を議論する授業実践を振り返って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 米沢崇・児玉真樹子・山内規嗣	4. 巻 13
2. 論文標題 小学校教員養成カリキュラムにおける教職志望学生の学びに関する一考察（2）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習開発学研究	6. 最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山内規嗣・木原成一郎・寺内大輔
2. 発表標題 小学校教員養成コースにおける教職科目間の連携に関する事例研究
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会第3回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	児玉 真樹子 (Kodama Makiko) (10513202)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	木原 成一郎 (Kihara Seiiitrou) (20214851)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	中村 和世 (Nakamura Kazuyo) (20363004)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	米沢 崇 (Yonezawa Takashi) (20569222)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	大後戸 一樹 (Oosedo Kazuki) (20632821)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	寺内 大輔 (Terauchi Daisuke) (60613891)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	松宮 奈賀子 (Matsumiya Nakako) (70342326)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 更志 (Ikeda Satoshi) (80610922)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	永田 忠道 (Nagata Tadamiti) (90312199)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関